杉本氏が新理事長に

名古屋三水会総会開く

名古屋食肉三水会協同組合（加藤功理事長）は2月21日、名古屋市昭和区の杉本食肉産業㈱で定期総会を開催。議事の中で任期満了に伴う役員改選が行われ、杉本達哉氏が新理事長に就任した。

総会は杉本達哉副理事長のあいさつで開会。冒頭、加藤理事長は経済や食肉業界を取り巻く環境について触れたあと「2年前から試験的に進めている豚肉の共同購入に注力していきたい。愛知県知多半島で種豚500頭規模の生産者の協力を得て知多三元豚の銘柄で販売している」

「知多三元豚協議会を設立し、と畜は名古屋市中央卸売市場南部市場、加工および配送はJAあいち経済連、決済は当組合を通して行う。品質の安定や頭数増加など改善点はいくつかあるが、ブランド育成にご協力いただきたい」とあいさつ。

議事では、平成24年度事業報告、同収支報告、同剰余金処分案、任期満了に伴う役員改選案が原案通り承認され、杉本達哉氏が新理事長に就任した。

「例会をますます活性化させたい」と杉本新理事長

新理事長は「ますます活性化させ、組合運営が円滑に進むよう努力したい」と就任の抱負を述べた。

新役員は次のとおり。

理事長　杉本達哉▽副理事長　後藤孝司、吉川林宏▽会計理事　宮田実▽専務理事　加藤功▽常務理事　佐藤剛▽理事　小出政巳、藤村宜史▽監査　田中武雅。

タイに現地法人開設

ミートコンパニオンが

㈱ミート・コンパニオン（阿部昌史代表取締役社長）は、海外輸出認定施設であるグループの食肉センター「アグリス・ワン和光ミートセンター」で処理加工した和牛のパーツ・セットをタイ国へ輸出販売しており、現地の高級ホテル・レストラン、高級百貨店の食品売り場を中心に、順調に推移してきた。

タイおよびその周辺国の経済成長は著しく、日本産の食材の引き合いが高まっており、現地での販売拡大を目的として、ことし1月30日にタイ国首都バンコク市に現地法人を開設した。事務所は、バンコク市内中心部を走るスクンビット通り沿いであり、都心部を走る高架鉄道BTS Udom Suk（ウドンスック）駅の目の前という好立地に構えた。

開設間もないことから、現地法人の日本からの輸入実績はないが、早い段階でタイ国での輸出入商社として事業を開始する計画だ。また、現地における食肉専門アドバイザーを養成するために、現在、数人のタイ人を採用し、日本での研修も実施している。

ミート・コンパニオンでは、グループの輸出プランドであるWAGYU SAMURAIのブランド認知および拡販に加え、日本産の優良な豚肉、加工品なども随時販売していく計画だ。現地法人は㈱ミート・コンパニオンインターナショナル（阿部昌史社長）

さらに4月1日付で沖縄県南城市大里字大城1927の㈱沖縄県食肉センター内に沖縄事業所（小峰大所長）を開設し、沖縄ブランド「おきなわ和牛」や「石垣牛」の部分肉加工・販売の強化を図る。また、おきなわ和牛を活用した付加価値商品の開発・製造にも取り組む。

ミート・コンパニオンインターナショナルの電話・FAXは（66）2—398—4611。販売担当はグループ営業戦略室の福島孝義氏＝電話（042）526—3451と、和光事業所の関井信也氏＝電話（048）451—5829。沖縄事業所は電話（098）946—2750、FAX（098）946—7850。

食肉需給動

神戸青年会

理事長で月例会を開催。㈱食肉通信社編集部の黒田亮課長を講師に迎え「食肉業界における昨年末の動き、ことしの動向など」と題した講演をきいた。

冒頭、竹中会長は「本年の需給動向などについて話していただく。他社やほかの業界の話もしていただけるので参考にしてほしい」とあいさつ。

黒田課長はまず食肉専門店の年末商戦の状況について説明。同社が定期的に行っているきき取り調査の結果、おおむね前年よりも好結果を得た店舗が多かったものの、相場高で推移したため利益面では苦戦を強いられたケースが目立ったと紹介した。

年末商戦の

また、量販店ではセシウム報道により大きく落ち込んでいた牛肉売上高が回復傾向にあり、ほとんどの企業が前期実績を上回ったが、前期の反動もあって豚肉は伸び悩んだこと、新年度の商品政策で米国産牛肉の取り扱いを増やす企業が目立つことをなどを説明。「引き合いは同じようなアイテムに集中する。国産については昨年と同傾向、輸入物も全体的に高値推移が見込まれる」と述べた。

質疑応答のあと池尾昌明副会長による乾杯発声で懇親に移り、出席者は活発に情報交換。幅広い分野の話題で盛り上がり、岸本寿人書記による閉会の辞で散会した。